

心の輪を広げる体験作文 小学生部門 ◆佳作

「しえん学校で遊んだ思い出」

相模原市立桂北小学校 三年 榎本 吉克

えのもと

よしかつ

ぼくは、津久井しえん学校に行くことを楽しみにしていました。

ぼくのクラスのみんなが、それぞれ自己しょうかいのカードを作  
って、しえん学校で一人ずつ発表することになりました。当日は、  
しえん学校の先生と生徒たちがやさしく出むかえてくれました。だ  
から、ぼくはきんちょうしないで自己しょうかいができました。

学校の中を先生があんないしてくれた後に、体育館で桂北小三年  
生としえん学校の子たちといっしょにゲームをして遊びました。ぼ  
くは、聞こえない子やお話ができない子とどうやってコミュニケーション  
シヨンをとったらいいかわかりませんでした。どうすればいいのか  
など思っていると、はじめにあいさつゲームで先生が手びょう子の  
あいさつを教えてくださいました。ぼくは、さいしょは手びょう子をは  
やくしすぎて、相手につたわりませんでした。そのあとに手びょう  
子を少しおそくして、相手の目を見たらつたわりました。

それから、タッチゲームや物運びリレーやバレーン遊びをやりま  
した。

タッチゲームでは、ぼくが全そく力で走ると、ぶつかった場合に

あぶないと思ったので、スキップでやりました。しえん学校の子たちも足がはやくておどろきました。おにごっことまちがえてなかなかタッチさせてくれない子がいたけれど、ぼくはその子がつかれて止まったところをタッチしました。その子はくやしがつっていたようだったけれど、先生がゲームのせつめいをしたら、理かいしてくれました。

物運びリレーは二つのチームに分かれて、二人組で物を運ぶゲームでした。はじめる前に作せん会ぎをしました。「直線のコースはダッシュして、三角コーンでターンするよ。」と話しました。大きな声でおうえんすると、気がちってしまう子もいるということを教えてもらったので、声をひかえめにして身ぶりをつけておうえんしました。

しえん学校の友だちとは、とくべつな遊び方をしないといけないと思っていたけれど、ふだんと同じように思いやりをもっていれば、いっしょに楽しく遊べるんだということがわかりました。

今回の交りゆう会の後、手話で「こんにちは」はどうやるのか気になったので、お母さんに調べてもらいました。右手の中指と人差し指をそろえておでこに当ててから、りょう手の人さし指を向かい合わせておりまげるのが「こんにちは」です。

またしえん学校の子たちと交りゆうしたいです。